

## 「怒る」と「叱る」の違い この違いを知っていますか？

辞書で調べてみるとその意味はほとんど一緒です。しかし、コミュニケーションとか育児とかの世界では、「怒る」と「叱る」は別のものとして扱っているのです。一言で言うと「**自分のために怒る。相手のために叱る。**」ということになります。

「怒る」とは、相手が自分に悪い影響を与えたり、自分が指示したとおりに動いてくれなかったりした場合に、自分が腹をたてたことを相手にぶつける動作なのです。「オレハオコッテンダゾー」ということを相手にわかってほしいとか、うっぶんを晴らしたいとか、相手を困らせたいとか、そんな理由でする行為です。そのような「自分の目的さえ果たせばいい」「相手がそれでどうなろうが知らない」というわけです。

「叱る」とは、相手が自分を含めて誰かに悪い影響を与えたり、自分が指示したとおりに動いてくれなかったりした場合に、相手をより良くしようとする注意やアドバイスを、あえて声を荒げたり語気を強めたりして相手に伝える動作なのです。学校の場合だと、規律が乱れるような行いだとか、生徒の生命に関わる行いや人権侵害に当たる行為だとかを「是正する」「本人が同じ間違いを繰り返さないようにする」そんな理由でする行為です。

人間は感情の生き物ですから、「怒るな」と言われても難しいものです。相手が対等の立場だったら怒ってもいいこともあります。ただ、感情的に怒るとかえって逆効果になる場合もあります。相手がもし子どもや生徒だった場合は、感情的に怒る前に一瞬「まてまて」という気持ちをもって、「相手のためになるように叱るにはどうすればいいか」を考えるようにすることで、より効果的に自分の気持ちを相手に伝えることができるようになるのではないかと思います。

「相手のために叱る」ということを突き詰めれば、実は先生や親に対して生徒や子どもが叱ることもできるかもしれません。これはとっても難しいことですが、例えばなぜ自分が注意されているかわからないときに「先生(お父さん)、何で自分ばかり注意するんですか!」と怒ったら、それこそ説教が長くなります。ここはひとつ冷静に、「先生(お父さん)、自分のどこがいけないのでしょうか。自分にもわかるように、ちゃんと説明してください。」とでも言うのも一つの方法です。

さて、効果的に「叱る」ために重要なことを考えてみました。以下の3つです。

- ・すぐ叱る。あとになって「あの件だけだね・・・」と叱るのは効果が薄くなります。
- ・短く叱る。言いたいことは山ほどあっても、ダラダラと説教するのは意味がありません。できれば二言、三言ぐらいで。それから、叱ったらすぐその場を離れること。ニラミをきかせると逆効果です。
- ・1対1で叱ることが大切です。

### 1組 連合鑑賞教室 2月7日

大田区特別支援学級連合鑑賞教室が、アプリコ大ホールにてラテンオーケストラ「エストレージャ」の演奏で行われました。

ラテンミュージックは、大変ノリもよく手拍子をしたり、身体でリズムをとったりしながら演奏を聴くだけでなく、プレイヤーと同じ舞台上に上がることでもでき一緒に演奏している気分も味わうことができました。

オーケストラ鑑賞教室とは、異なる雰囲気での鑑賞教室になりました。生徒は音楽を思い切り楽しむことができたと思います。



## 2年 社会科見学 鎌倉 2月3日

2学年担当 鈴木 純



「1/27（金）放課後」

昨年の11月18日、体育館3Fに集まり、鎌倉の歴史を学習するDVDを観ました。その日から社会科見学に向けての準備が始まり、6回のコース検討と7回の実行委員会、2回の係会を行いました。コース検討では個人の行きたいところを出し合い班でまとめ、タブレットを使用してより詳しい道順、時間を調べました。また、ルール決めからしおりの制作、前日指導まで実行委員がよく準備をしてくれました。あとは当日、班員全員がどれだけ協力できるかどれだけ鎌倉を楽しめるかで、社会科見学が成功するかが決まるでしょう。

「2/6（月）放課後」

6日の1時間目に事後学習として、アンケートと作文を書きました。そこには「道を間違えないよう班員同士で声を掛け合えた」や「時間が遅れそうなときにみんなで相談して時間の調整ができた」など、班行動中に協力し合えたことが多数書かれていました。また「小学生のときは違う気持ちで見学できた」「大仏や、建築物の時代を感じ、感動した」「もう一度鎌倉に行きたい」など鎌倉の文化にも触れることができたようです。

一方、不要物を持ってきた、服装のルールを守れなかった、化粧をしてきたという生徒もいました。修学旅行を見据え、何ができれば成功といえるのかを学年全体で考えていきたいです。（当日の様子や詳しい反省は学年だよりに掲載しました。）



## 1年&1組 留学生が先生

2月14日(火)に国際理解教育(オリンピック・パラリンピック教育)の一環として「留学生が先生」の授業を行いました。対象は1年と1組で行いました。

日本に留学生として来ている外国の方に、それぞれの国の文化などの紹介を授業として行ってもらっています。今回は、インドネシア、タイ、シンガポール、アゼルバイジャン、インドからの留学生が来校しました。写真や民族衣装、楽器なども用意してくれて楽しい授業を展開しました。生徒も、普段の授業以上に真剣なまなざしで授業に臨んでいました。

授業を終えての感想を留学生に聞くと、皆さんは「とても授業がやりやすかった」「生徒が積極的に発言してくれて楽しい授業になった」「生徒が礼儀正しかった」など、生徒の授業態度に対するお褒めの言葉をたくさんいただくことができました。

とても良い国際理解学習になったと思います。



## 生徒の活躍

剣道部……大田区中学校剣道新人大会 女子個人準優勝(2B・佐藤) 男子個人敢闘賞(1A・保坂) 1/29  
東京都教育委員会防災標語コンクール……優秀作品「災いは人のゆだんのすきをつく」(1A・渋谷) 2/9  
大田区中学校新聞コンクール学習新聞の部…優秀賞(3A・三浦) 入賞(1C・保坂 2C・倉方) 2/2